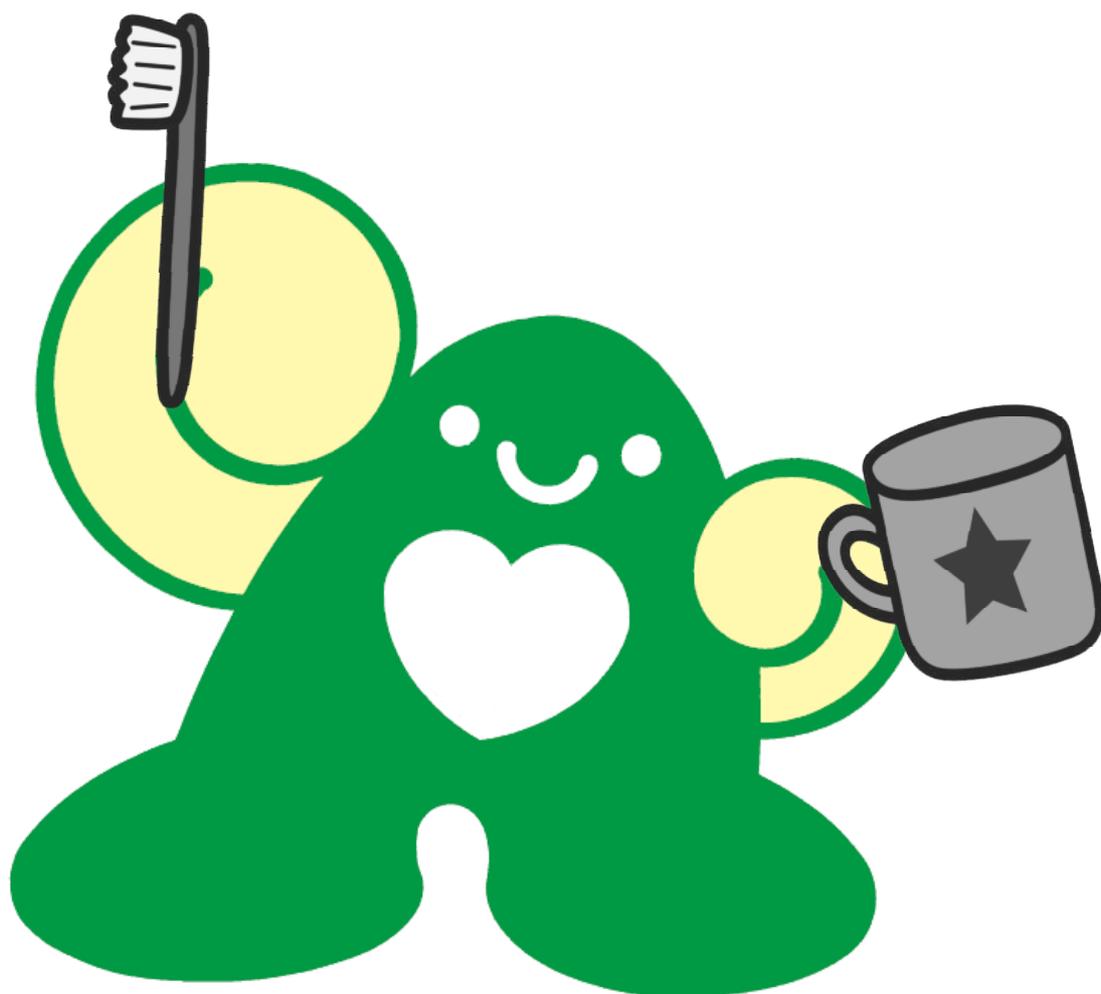


阿賀町歯科保健計画



阿賀町健康づくりキャラクター
「阿賀ゲンキくん」

平成28年4月 阿賀町



はじめに



健康で生きがいを持って人生をおくることは町民すべての願いであり、社会全体の願いでもあります。健康の維持・増進にも、歯及び口腔の健康は重要な役割を担っており、単に「食べる」という役割だけでなく、運動機能向上、生活習慣病予防、寝たきり予防にも関係があります。また、食事をおいしく食べられる事や会話を楽しむ事は、心豊かな生活にも繋がります。町民の皆様一人ひとりが健康で心豊かな生活を送るためにも、歯と口腔の健康に取り組むことが大切です。

新潟県は、全国に先駆けて歯科保健対策に注力し、平成20年7月には全国初の「新潟県歯科保健推進条例」を制定しました。その後、平成23年8月には「歯科口腔保健の推進に関する法律（歯科口腔保健法）」が国で施行されました。

阿賀町では、平成19年3月に「阿賀町健康増進計画（いきいき元気プラン）」を策定し、「だれもが健康で安全に暮らせる町づくり」を基本理念に保健事業を展開してまいりました。計画では「肥満予防（食生活・運動）」「こころ・休養」「がん」「たばこ・アルコール」「歯と口腔」「糖尿病・高血圧」の6つ分野を基本的な推進項目として、重点目標及び目標値を設定しています。

この度、「阿賀町健康増進計画（いきいき元気プラン）」の柱の一つである「歯と口腔」分野のさらなる推進を図るために、「阿賀町歯科保健計画」を策定しました。この計画を通して、子どもから高齢者まで一貫して歯と口腔の健康を維持し、全身の健康づくりを図れるよう、保健事業を展開していきます。

最後に、この計画の策定にあたって、実態調査のアンケートにご協力頂いた住民の皆様、ご意見ご協力を頂いた多くの関係者の方々に心から感謝申し上げますとともに、本計画の事業推進につきましても、引き続きご指導、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

平成28年4月

阿賀町長 神田 敏郎

目次

第1章 計画策定の趣旨

1	計画策定の背景について	1
2	計画の基本的な考え方（基本理念・目的）	1
3	計画の期間	1
4	計画策定までの流れ	2
5	計画の位置づけ	3
6	計画推進体制	4
7	評価	4

第2章 世代別にみた歯科保健の現状と課題、目標及び取組の具体策

1	妊娠期	5
2	乳幼児期	7
3	学童・思春期	11
4	青・壮年期	15
5	高齢期	20
6	障がい者・要介護者	25

資料

1	アンケート調査の概要	27
2	策定委員名簿	28

第1章

計画策定の趣旨



1. 計画策定の背景について

歯や口の健康は、単に「食べる」という生理的な欲求だけでなく、全身の健康に影響を及ぼします。また、健康面だけでなく、会話を楽しむ、食事を味わう等生活や気持ちを豊かにすることにも重要な役割を持っています。

このことから、厚生労働省では平成元年より「80歳になっても自分の歯を20本保つ」という「8020（ハチマル・ニイマル）運動」を展開しています。新潟県でも「むし歯半減10か年運動」「ヘルシースマイル2000プラン」「ヘルシースマイル21」等の計画や全国初の「歯科保健条例」の制定を実施し、現在では12歳児の一人平均むし歯数が15年連続で全国最少という成果を上げています。

阿賀町では、平成19年3月に「阿賀町健康増進計画いきいき元気プラン」を策定し、歯科保健の分野でもむし歯・歯周病の予防や年齢を重ねても自分の歯で食生活を楽しむことを目標に、ライフステージに合わせた目標・指針を作成して歯科保健事業を展開してきました。

しかし、歯や口の健康は、年齢による口腔内の変化があることや、年齢を重ねるほど個人差が大きくなるという特徴があります。そこでこの度、より細かな分析や施策を行うために「阿賀町歯科保健計画」を策定しました。

2. 計画の基本的な考え方

基本理念

町民一人ひとりがいつまでもよい歯で自分らしい生活を送れる

阿賀町総合計画では「豊かな阿賀町・かがやく文化・みんなで築く安心のまち」を基本理念に、その実現を目指して総合的に施策を推進しています。その中の健康づくりに関する分野では「だれもが健康で安全に暮らせるまちづくり」を基本方針として取り組んでいます。このことから、「阿賀町健康増進計画いきいき元気プラン」でも「だれもが健康で安全に暮らせるまちづくり」を基本理念として、町民一人ひとりの健康づくりの支援に取り組んできました。

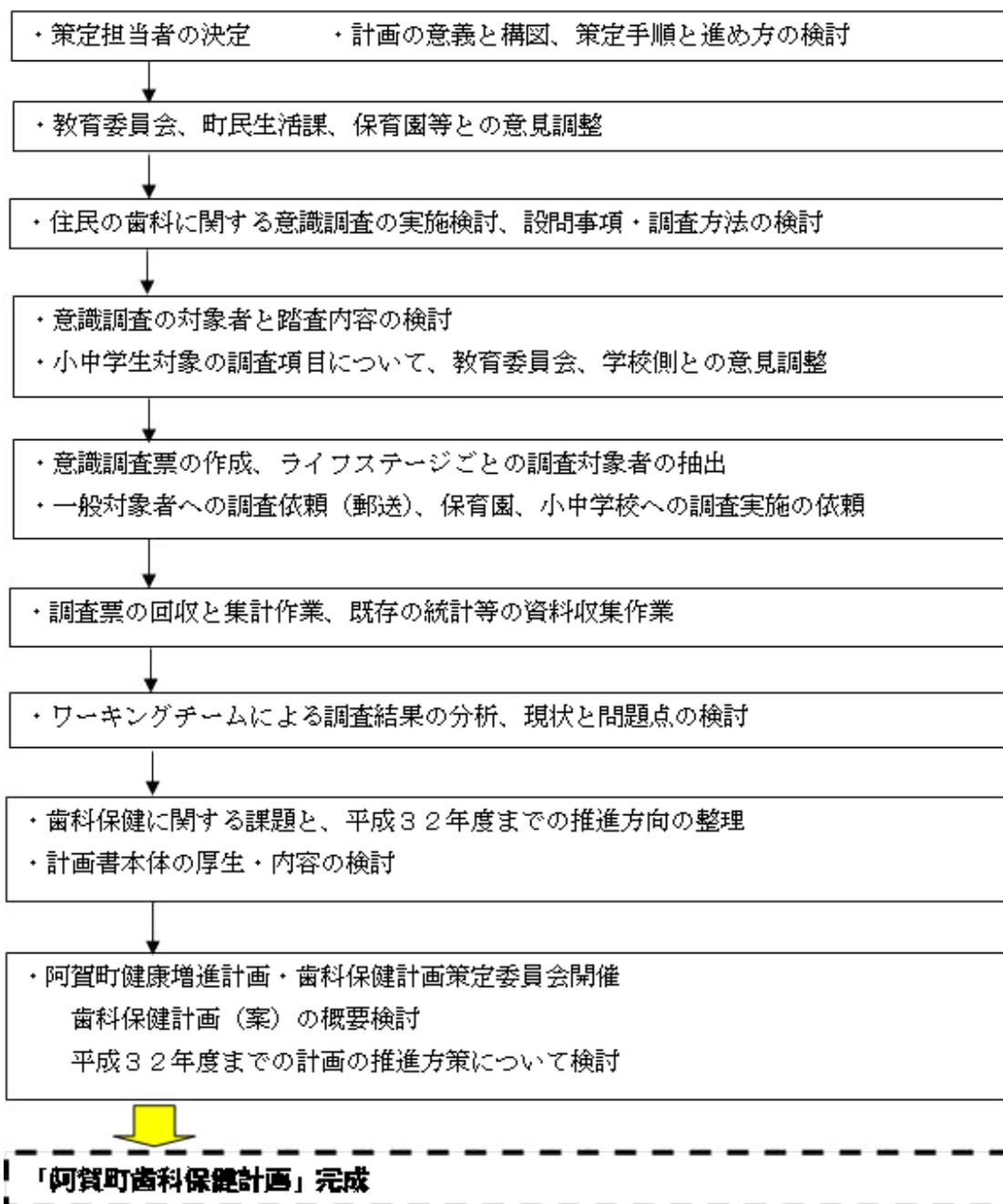
これを踏まえ「阿賀町歯科保健計画」では「町民一人ひとりがいつまでもよい歯で自分らしい生活を送れる」を基本理念とし、この理念が達成されることで「だれもが健康で安全に暮らせるまちづくり」という目標に寄与します。

3. 計画の期間

この計画の期間は、平成28年（2016年）4月～平成33年（2021年）3月までの5年間とします。

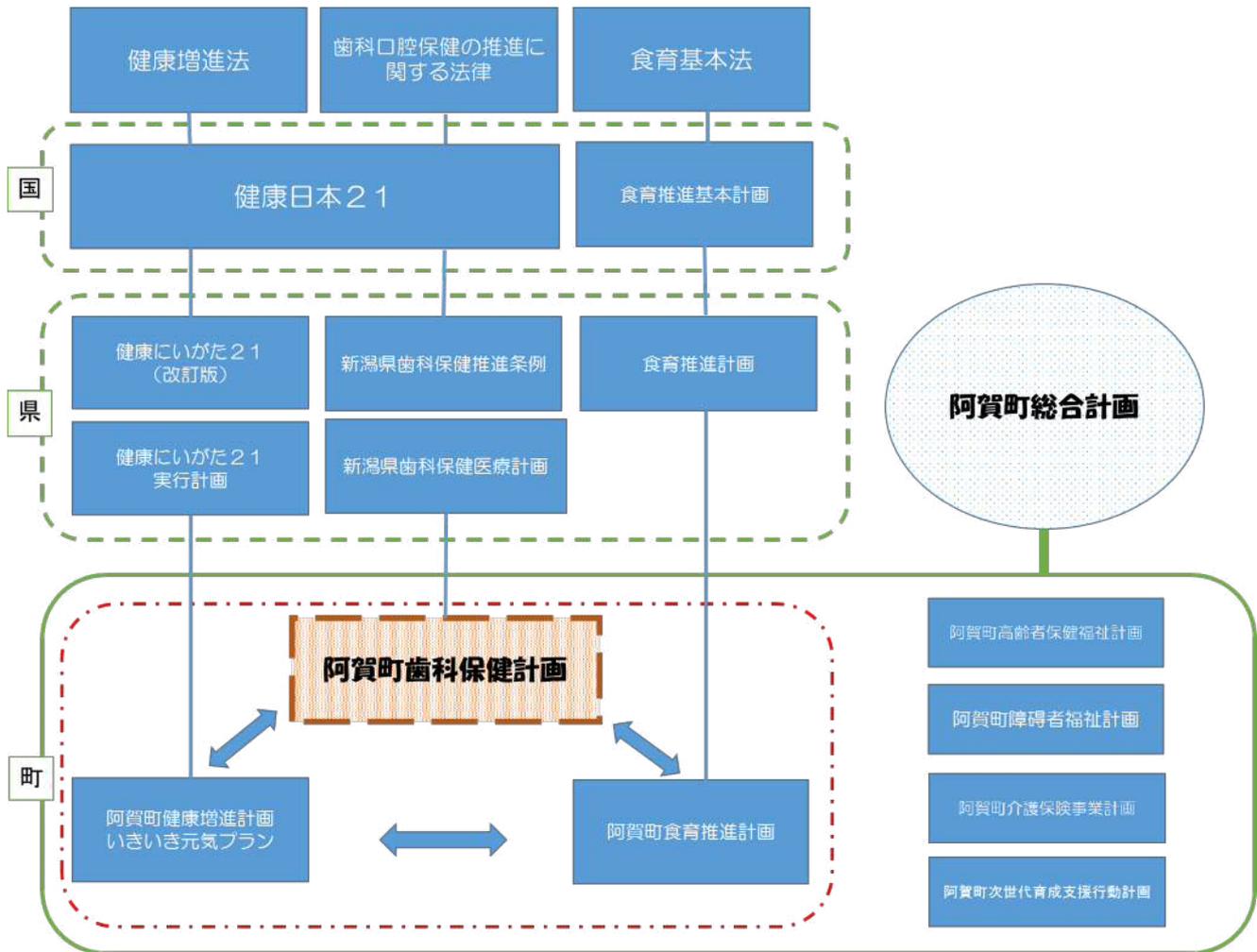
4. 計画策定までの流れ

計画策定に当たっては、住民の意識調査により現状把握、意見聴取を行いました。それをもとに、町関係者によるワーキングチームで現状・課題・対応策の検討を重ね計画案を策定し、策定委員会において計画案の検討を行い、計画を策定しました。



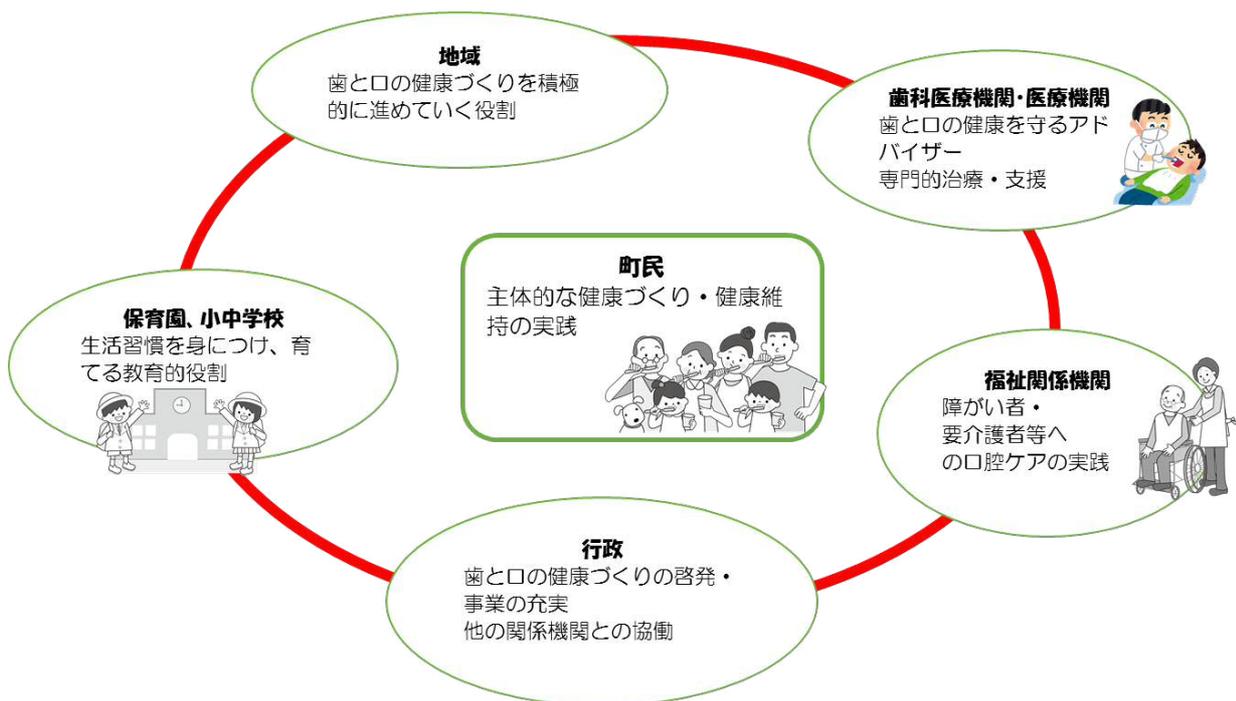
5. 計画の位置づけ

「阿賀町歯科保健計画」は「歯科口腔保健の推進に関する法律」や「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21）」、「新潟県歯科保健推進条例」や「新潟県歯科保健医療総合計画」などを踏まえています。



6. 計画推進体制

計画の推進に当たっては、行政だけでなく、地域や各種団体等、様々な社会資源と連携し、町民の歯科保健に対する意思や意欲を高めるための啓発普及や、1人ひとりの主体的健康づくり活動を支援していきます。



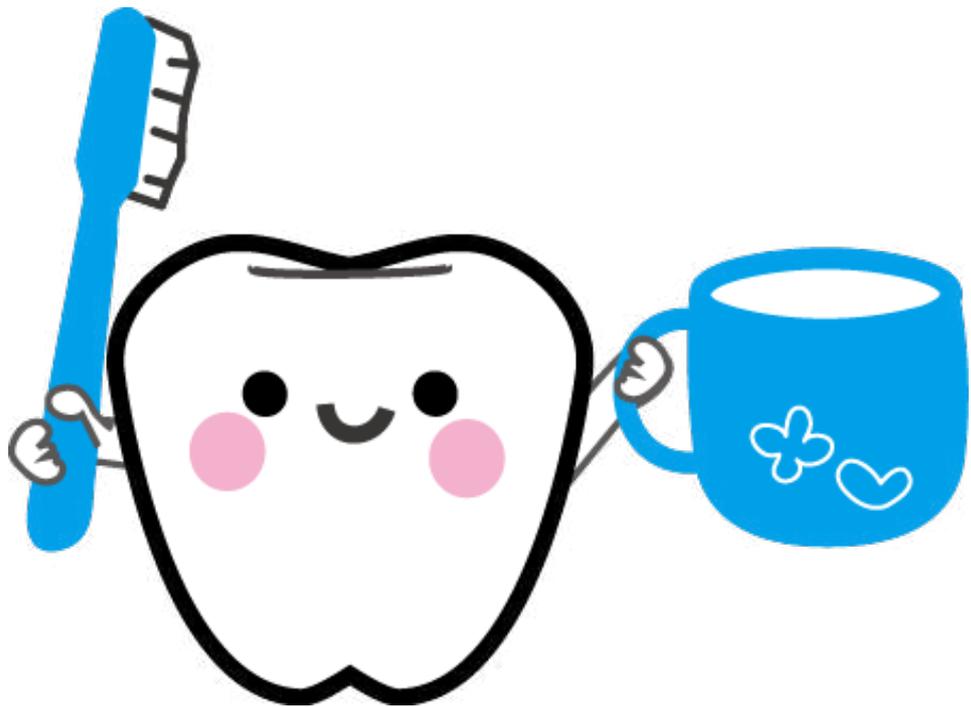
7. 評価

策定委員による計画の進行管理・評価・目標修正を毎年実施します。

平成32年度において、目標値に基づき達成度の評価を行い、新たな歯科保健計画に反映させます。

第2章

世代別にみた歯科保健の
現状と課題、目標及び取組の具体策



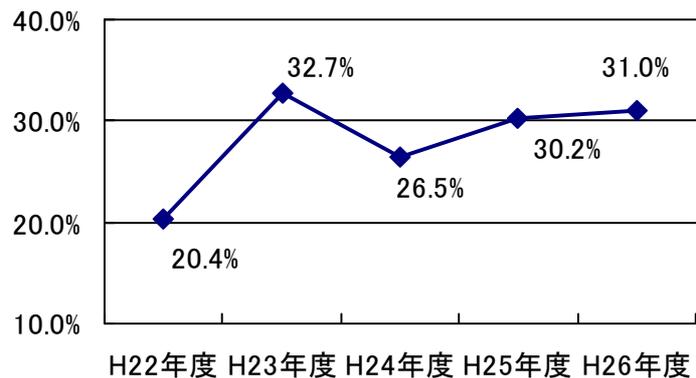
ライフステージ1 妊娠期

<u>目 標</u>	歯の健康づくりに関心を持ち、生まれてくる子どもをむし歯から守る
<u>行動目標</u>	妊娠中に歯科健診を受ける 口腔のセルフケアの継続

現 状

- i** 妊婦歯科健診の受診率は、毎年 30%程度で県平均並みではあるが、全員の受診には至っていない。

◆妊婦歯科健診受診率の推移



- i** 平成 26 年度の妊婦歯科健診結果では受診者の 35.7%がむし歯に罹患しており、42.9%が歯周疾患に罹患している。

◆H26 年度妊婦歯科健診の結果

受診率	指導区分			むし歯罹患率	1人平均むし歯本数	歯肉炎罹患率	歯周炎罹患率	歯周疾患罹患率
	健康	要指導	要治療					
31.8%	35.7%	7.1%	57.1%	35.7%	8.93本	35.7%	33.6%	42.9%

課題

- i** 妊婦歯科健診の受診率は低さや、受診者の多くが要治療であることから、妊娠期から歯の健康づくりに対する関心が低く、これから生まれてくる子どもの歯の健康にも影響が考えられるため、妊娠期からの歯の健康づくりに対する関心を高める必要がある。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- * 定期的に歯科検診を受け、セルフケアを継続する
- * 歯間部清掃用具を使おう
- * バランスの良い食事を心がけよう

行 政

- * より受診しやすい、妊婦歯科健診の体制の検討
- * 母子健康手帳交付時に歯の健康に関するパンフレットの配布

評価指標

	現状値(2014 年度)	目標値(2020 年度)
妊婦歯科健診受診率	31.8%	50.0%

主要事業



- * 妊婦歯科健診、未受診者受診勧奨
- * 妊産婦医療費助成
- * 母子健康手帳交付時の保健指導

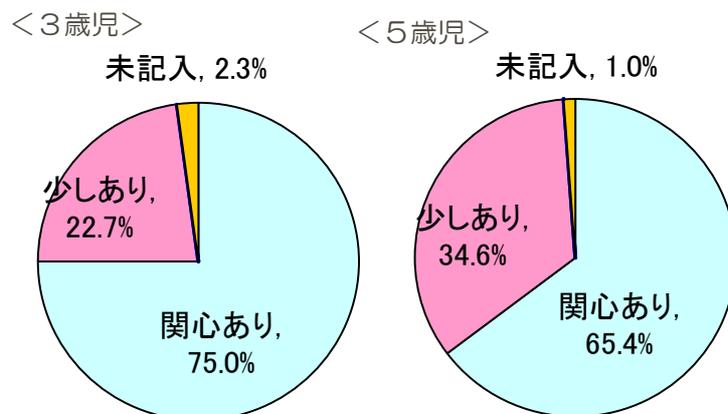
ライフステージ2 乳幼児期

<u>目 標</u>	乳歯のむし歯を作らない
<u>行動目標</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者が子どもの歯に関心を持ち、乳歯をむし歯から守るための予防方法を実践する ●子どもが、自分の口の健康に関心が持てるような関わりができる

現 状

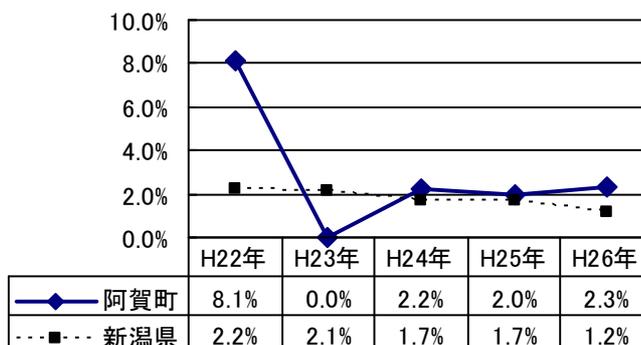
i 子どもの歯の健康に関心のある保護者の割合は、3歳児・5歳児の保護者ともに、歯の健康に対する関心は高い。しかし、年齢とともに関心度が下がる傾向がみられる。

◆子どもの歯の健康に関心のある保護者の割合
(健康づくりアンケートより)



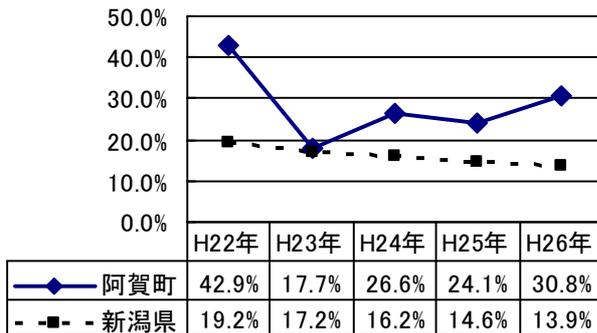
i 1歳6か月児のむし歯有病率は、毎年県平均よりも高くなっている。

◆1歳6か月児のむし歯有病率(幼児健診より)

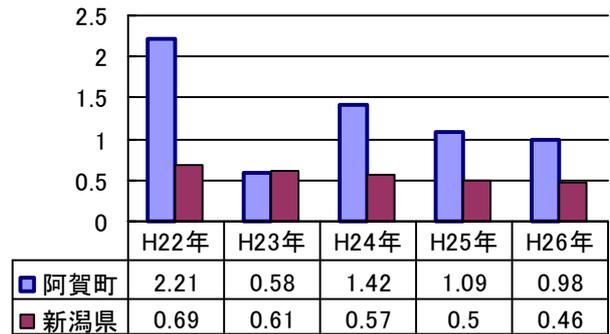


- i 3歳児のむし歯有病率は年々増加しており、県平均よりも高く H24 年度から3年連続県内ワースト 1 位となっている。また、3歳児の一人平均むし歯本数も県平均よりも多くなっている。

◆3歳児のむし歯有病率
(新潟県母子保健の現況より)

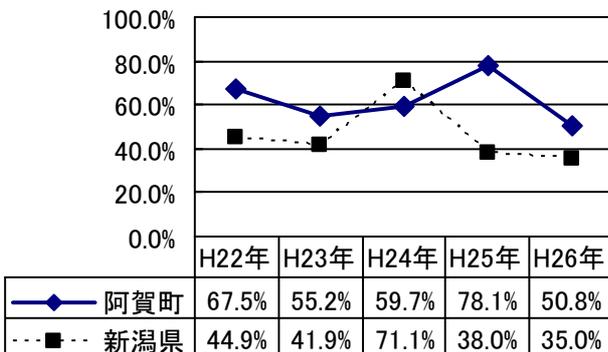


◆3歳児1人平均むし歯本数
(新潟県母子保健の現況より)

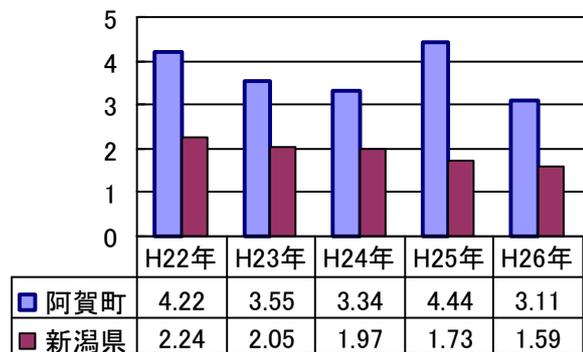


- i 5歳児のむし歯有病率は年々増加しており、県平均よりも高く県内ワースト 1 位が続いている。また、5歳児の一人平均むし歯本数も県平均よりも多くなっている。

◆5歳児のむし歯有病率
(新潟県母子保健の現況より)

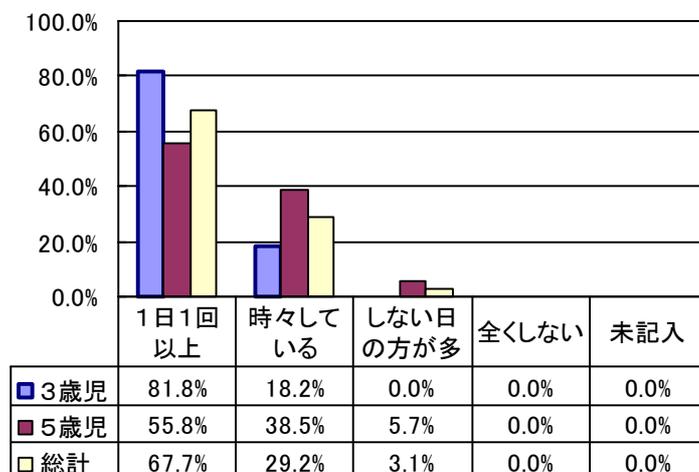


◆5歳児1人平均むし歯本数
(新潟県母子保健の現況より)



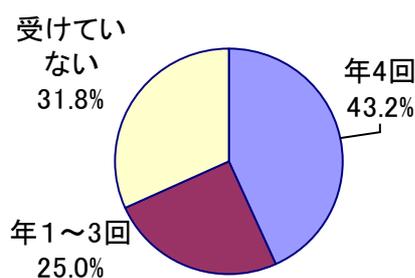
i 仕上げ磨きをしている幼児の割合は、3歳児では1日1回以上の者が大部分を占めるが、年齢が高くなると毎日している児が減少し、時々、しない日の方が多が増加している。

◆毎日仕上げ磨きをしている割合(アンケートより)



i フッ化物塗布を受けている児の割合は、4割以上は定期的に塗布しているが、3割は受けていない。

◆フッ素塗布を受けたことがある児の割合
(3歳児のみ・アンケートより)



課 題

i 幼児のむし歯有病率は、県内でワースト上位となっていて、乳歯をむし歯から守るための予防対策が十分ではないと考えられます。フッ化物塗布や仕上げ磨きは、年齢が高くなるにつれて実施率が下がり、保護者の歯の健康への関心も年齢とともに低下していることから、保護者・本人の歯の健康への予防意識の向上が重要です。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- * 保護者が仕上げ磨きを 1 日 1 回はする
- * フッ化物塗布・フッ化物洗口を利用する
- * むし歯ができれば、早期受診・早期治療

行 政

- * 乳幼児健診、健康教室等での歯科保健指導の充実
- * フッ化物を応用した歯の健康管理の継続

評価指標

	現状値 2014 年度	目標値 (2020 年度)
仕上げ磨きを毎日している保育園児の割合	※67.7%	100%
フッ化物塗布を定期的に受けている幼児の割合(年 4 回)	※43.2%	50%
1 歳 6 か月児のむし歯有病率	2.3%	0%
3 歳児のむし歯有病率	30.8%	20%
5 歳児のむし歯有病率	50.8%	35%
3 歳児の 1 人平均う歯本数	0.98 本	0.7 本以下
5 歳児の 1 人平均う歯本数	3.11 本	3.0 本以下

※印：2015 年度のデータ

主要事業



- * 乳児健診・幼児健診
- * フッ化物塗布・フッ化物洗口
- * 保育園でのお口の健康教室(1 施設年 1 回以上)
- * 広報等での啓発
- * 歯科医師会との連携

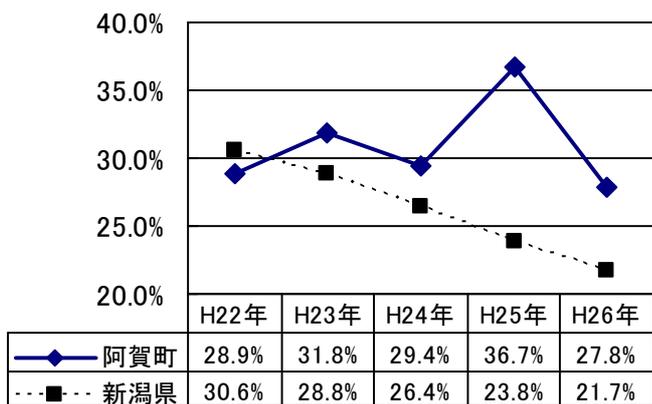
ライフステージ3 学童/思春期

<u>目 標</u>	むし歯・歯周疾患を予防する
<u>行動目標</u>	●児童・生徒が永久歯と歯肉の健康を保てるように、正しい知識を身に付け実践する

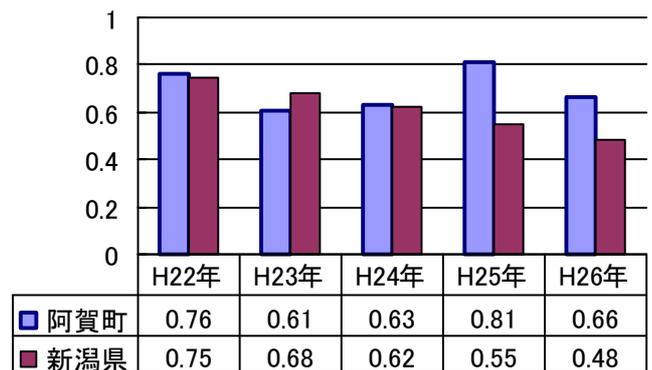
現 状

- i** 12歳児でむし歯のある者の割合は年々増加しており、県平均よりも高くなっている。また、12歳児の一人平均むし歯本数は、県平均並みだったが、近年は県平均より多くなっている。

◆12歳児のむし歯有病率
(新潟県小児の歯科の現状と歯科保健対策より)

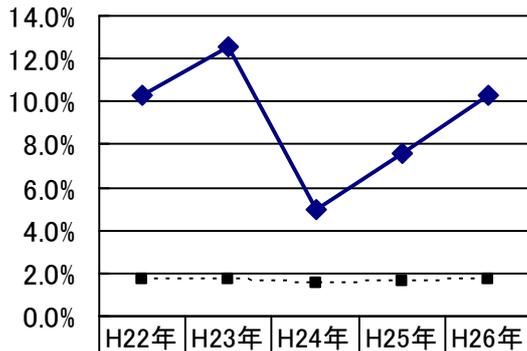


◆12歳児の一人平均むし歯本数
(新潟県小児の歯科の現状と歯科保健対策より)



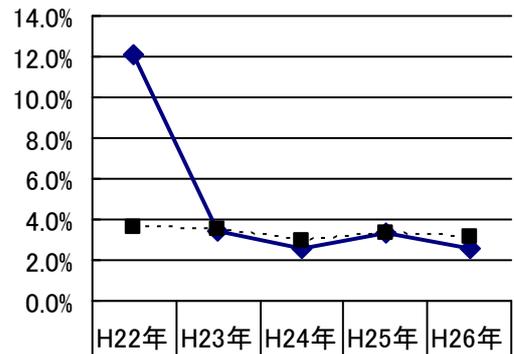
i 小学生の歯肉の状況は、要精密検査者が県平均より多くなっている。中学生では、県平均並みとなっている。

◆小学生の歯肉の炎症・要精密検査者の割合(学校保健統計より)



◆ 阿賀町	10.3%	12.6%	5.0%	7.6%	10.3%
---■--- 新潟県	1.7%	1.7%	1.5%	1.6%	1.7%

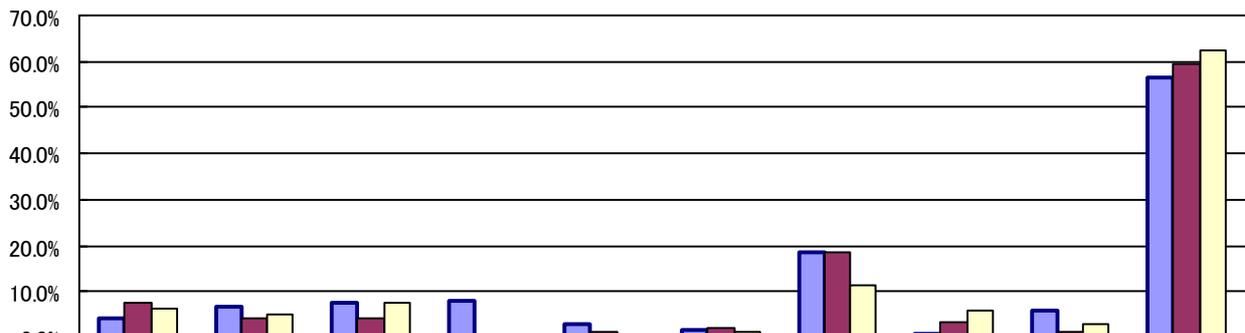
◆中学生の歯肉の炎症・要精密検査者の割合(学校保健統計より)



◆ 阿賀町	12.1%	3.4%	2.6%	3.3%	2.6%
---■--- 新潟県	3.6%	3.5%	3.0%	3.3%	3.1%

i 歯や口腔に関する悩み事のある児童・生徒の割合は、悩み事はないという児童・生徒が各年代で半数以上となっている。悩み事の中では、歯並び・噛み合せに関する悩み事がどの年代でも多くなっている。割合は少ないが、痛み、出血、口臭など歯周疾患症状に関する悩み事も見られた。

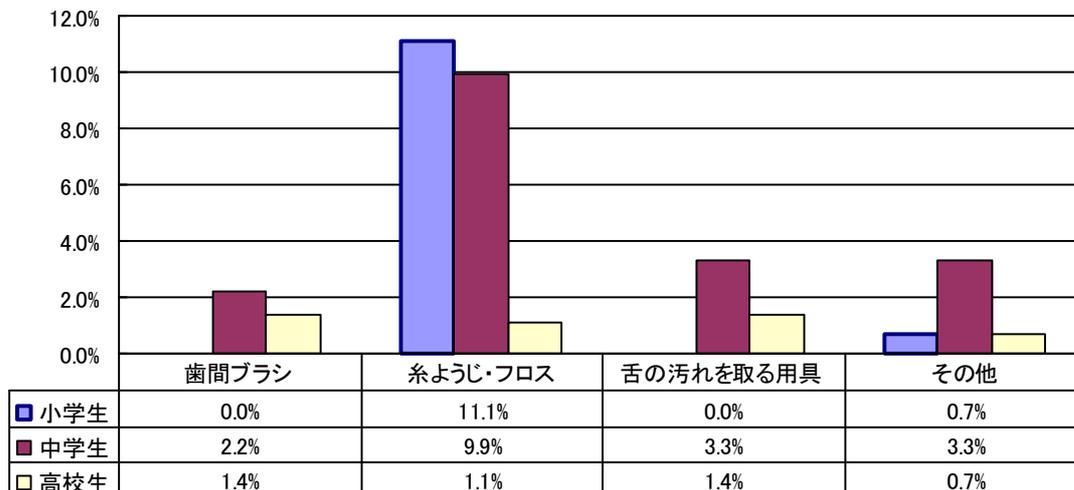
◆歯や口腔に関する悩みのある者の割合(複数回答・アンケートより)



■ 小学生	4.4%	6.7%	7.4%	8.0%	2.9%	1.5%	18.5%	0.8%	5.9%	56.3%
■ 中学生	7.7%	4.4%	4.4%	0.0%	1.1%	2.2%	18.7%	3.3%	1.1%	59.3%
□ 高校生	6.4%	5.0%	7.8%	0.0%	0.0%	1.4%	11.3%	5.7%	2.8%	62.4%

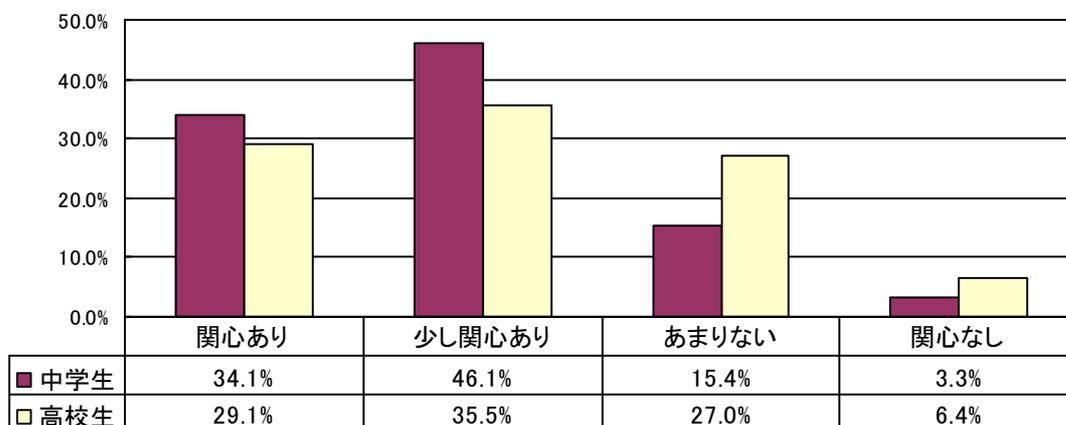
i 歯ブラシ以外の歯間清掃用具を使用している児童・生徒の割合は非常に少なく、ほとんどの児童・生徒は、歯ブラシのみで口腔清掃を行っている。

◆歯ブラシ以外の歯間清掃用具を使用している児童・生徒の割合
(複数回答・アンケートより)



i 中・高校生の自分の歯の健康に関心のある生徒の割合は、半数以上は関心あるが、高校生では中学生より関心度が下がり、3割は関心が低い。

◆歯の健康に関心のある生徒の割合(アンケート結果より)



課題

i 小中学生の歯肉炎罹患率が増加している。フッ化物洗口などで、むし歯は予防できても、口腔の清掃が不十分だと歯肉炎が増え、将来的に自分の歯を失う危険性が高くなることから、本人の歯の健康への予防意識の向上と、正しい予防方法の実践が重要です。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- *正しいブラッシングで歯磨きする
- *フッ化物洗口を利用する
- *むし歯ができれば、早期受診・早期治療

行 政

- *むし歯、歯肉炎を早期発見し治療につなげる(教育委員会)
- *フッ化物を応用した歯の健康管理の継続
- *正しい歯磨き方法(歯間清掃用具の利用)、歯周疾患予防の知識の普及啓発

評価指標

	現状値 (2014 年度)	目標値 (2020 年度)
12 歳児のむし歯有病率	27.8%	県平均以下
12 歳児の 1 人あたりむし歯本数	0.66 本	県平均以下
歯肉炎のある児童・生徒の割合	小学校 10.3%	7%
	中学校 2.6% 高校 3.2%	現状維持
歯間清掃用具を使用している児童・生徒の割合	小 11.8% 中 15.4% 高 4.6%	増加

主要事業



- *フッ素洗口(小中学生)
- *お口の健康教室(各小中学校年 1 回)
- *学校歯科健診(教育委員会)
- *歯科医師会・学校保健委員会との連携
- *健康フェスティバル等での正しい知識の啓発普及

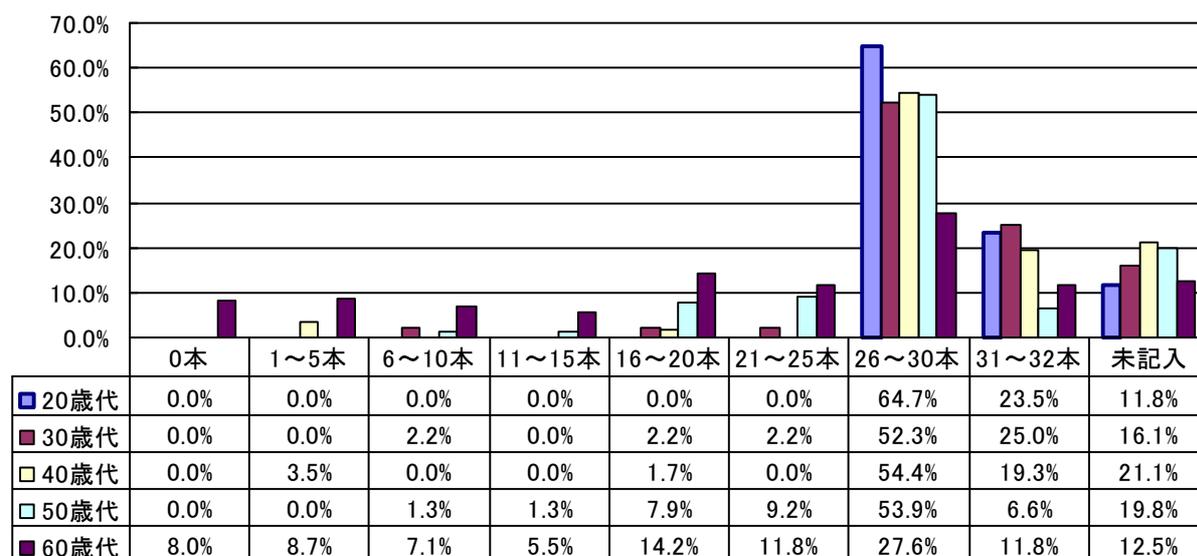
ライフステージ4 青壮年期

<u>目 標</u>	60 歳代で 24 本以上の歯を残し、自分の歯で食生活を楽しむ
<u>行動目標</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●歯ブラシや歯間清掃用具を使った、口腔ケアの習慣を身に付け実践する ●かかりつけの歯科医院等を持ち、定期的に歯科検診や歯石除去をうける

現 状

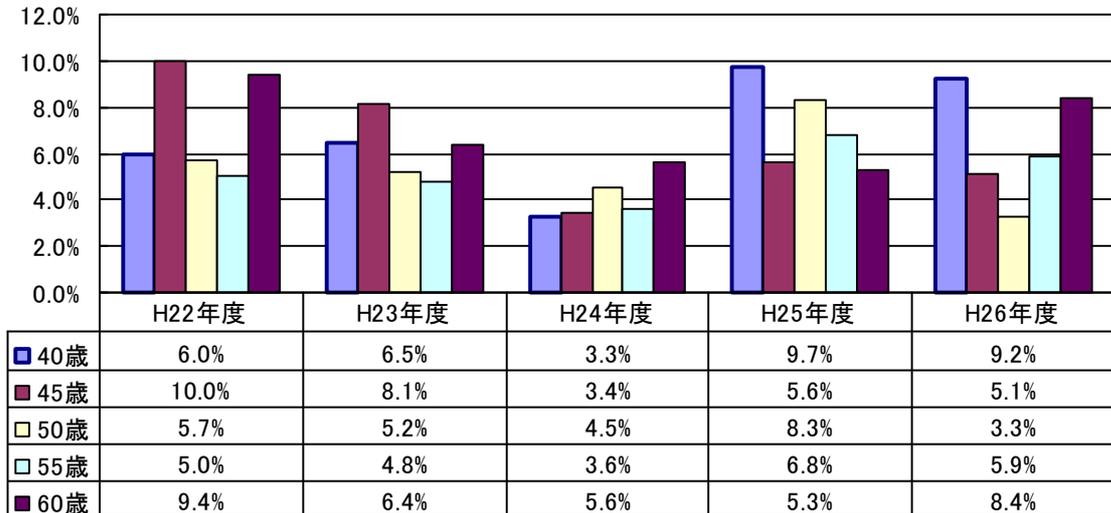
i 自分の歯があるものは、50 歳代までは半数以上が 25 本以上あるが、60 歳代にはいると 25 本以下になるものが半数以上となる。

◆現在ある自分の歯の本数(アンケートより)



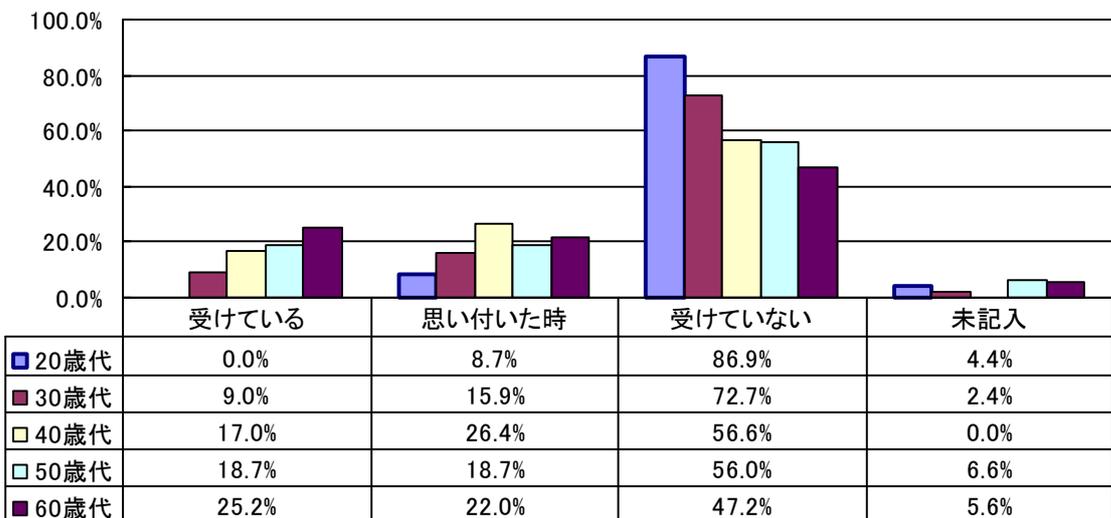
i 成人歯科・歯周疾患検診を受診している人は、45・50・55歳は受診率が低くなっている。

◆成人歯科・歯周疾患検診受診率(町成人歯科検診結果より)



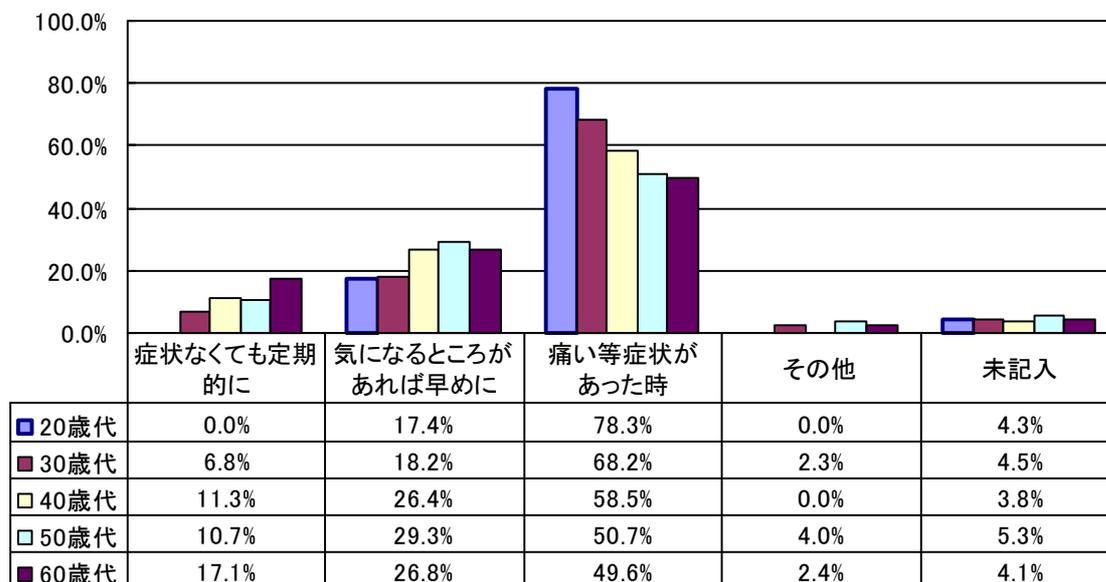
i 定期的に歯科検診や歯石除去を受けている人は少なく、年齢が若いほど受けている人が少ない。

◆定期的に歯科検診・歯石除去を受けている人の割合(アンケートより)



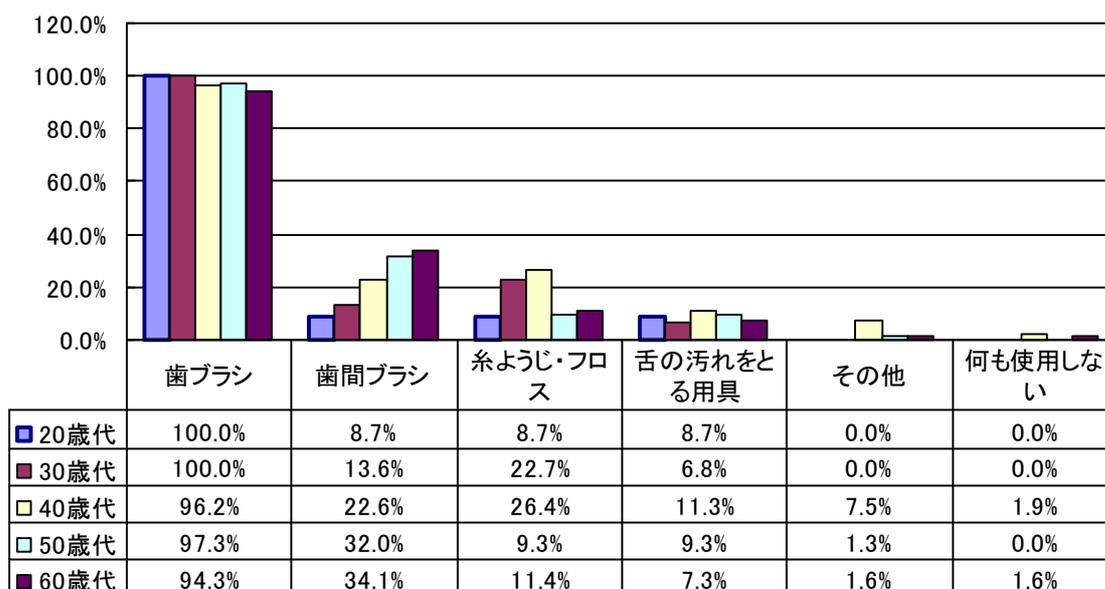
i 歯科医院へは、症状が出てから受診する人が多く、予防的に受診している人は少ない。

◆ 歯科医院を受診する理由(アンケートより)



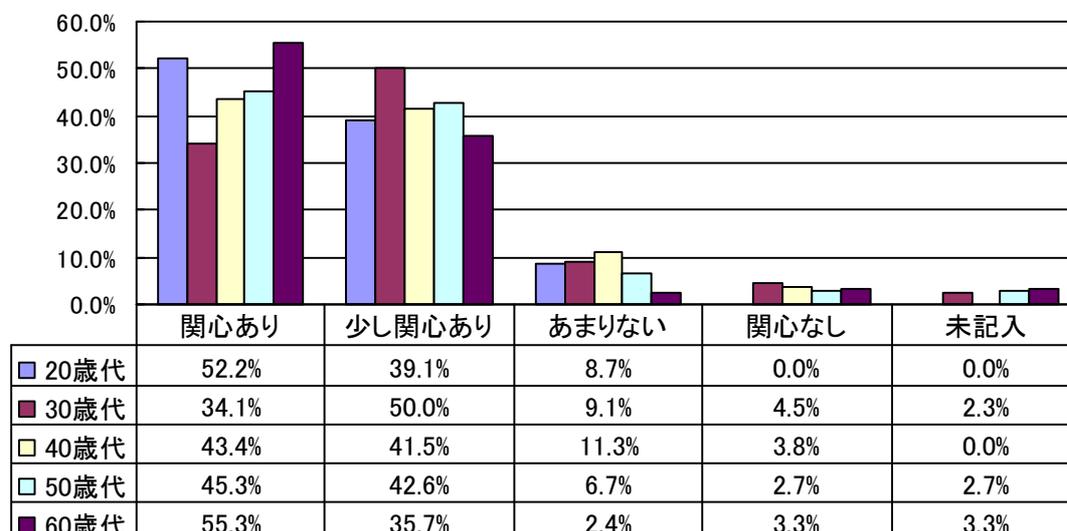
i 歯ブラシ以外の口腔清掃用具を使用している者は少ない。
歯間ブラシを使用している人の割合は、年齢が高くなるにつれて増加傾向。

◆ 歯の手入れで使用している道具(アンケートより)



i 歯の健康に関心のある人は、どの年代も8割以上となっている。

◆歯の健康に関心のある人の割合(アンケート結果より)



課題

i どの年代も、歯の健康に対する関心はあるが、検診受診などの行動にはつながっていない。青壮年期で歯を失う原因は、歯周疾患であることが多く、歯周疾患の予防には、歯磨きだけでは不十分であり、歯間ブラシや糸ようじ・フロスの活用や、定期的な歯科検診・歯石除去などが重要です。しかし、むし歯や歯周疾患予防の行動にはつながらず、60歳代で自分の歯が24本以下になる人が増えている。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- * 歯間清掃用具も活用し、丁寧な歯磨きを心がける
- * 定期的に歯科検診を受ける

行 政

- * 節目の成人歯科検診の実施
- * 健康教室等の様々な機会を通じて、歯間清掃用具の利用、歯周疾患予防の知識の普及啓発

評価指標

	現状値 (2014 年度)	目標値 (2020 年度)
60 歳代で自分の歯が 25 本以上ある人の割合	39.4%	50%
定期的に歯科健診・歯石除去を受ける人の割合	20~30 歳代 5.9% 40~60 歳代 21.5%	20~30 歳代 10% 40~60 歳代 30%
歯間清掃用具を使用する人の割合	33.3%	40%
成人歯科・歯周病疾患検診受診率	3.3~9.2%	全年代 10%

主要事業



- * 成人歯科検診（年度末年齢 40・50・60 歳対象）
- * 健康教室での歯周疾患予防啓発
- * 健康フェスティバル等での正しい知識の啓発普及

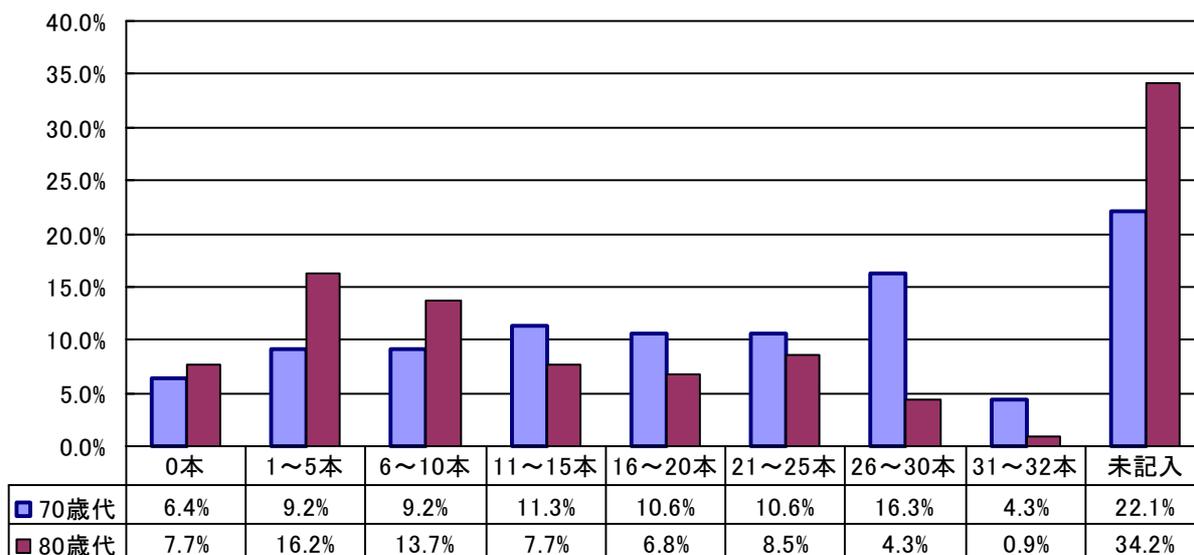
ライフステージ5 高齢期

<u>目 標</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●なるべく多くの自分の歯で食生活を楽しむ ●義歯等を利用して、いつまでもおいしく食べられる
<u>行動目標</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●歯ブラシや歯間清掃用具を使った、口腔ケアの習慣を身に付け実践する ●かかりつけの歯科医院等を持ち、定期的に歯科検診や歯石除去をうける

現 状

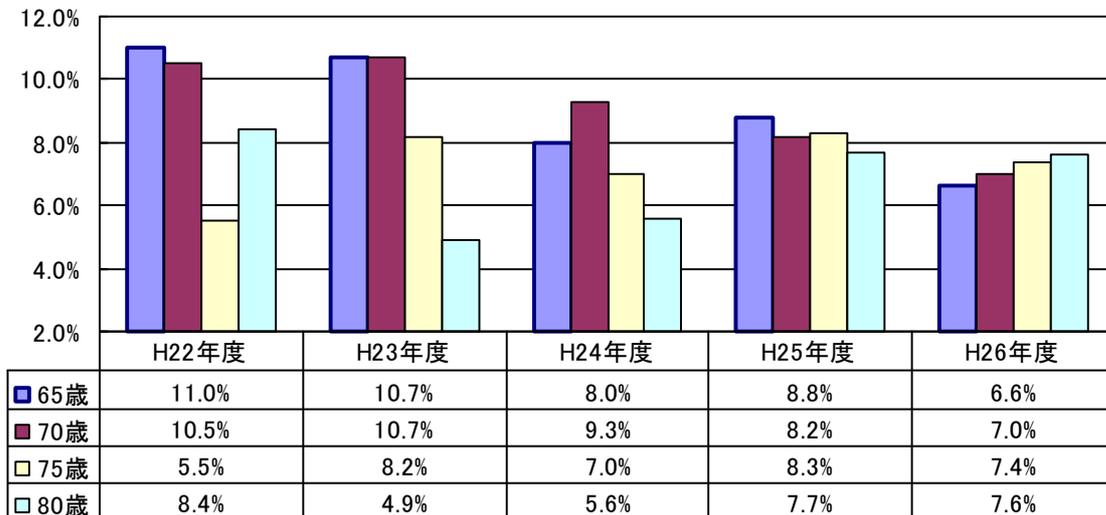
i 自分の歯の本数が少なく、80歳代では2割以上が0~5本となっている。

◆現在ある自分の歯の本数(アンケートより)



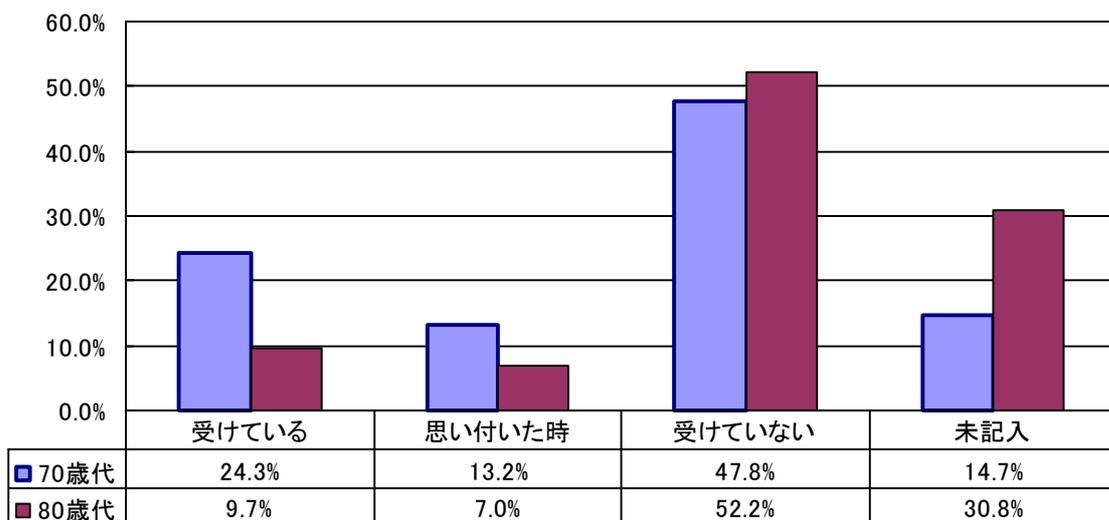
i 成人歯科・歯周病疾患検診を受診している人は、青壮年期と比較して受診率は高いが、年々、低下している。

◆成人歯科・歯周病疾患検診受診率(町成人歯科検診結果より)



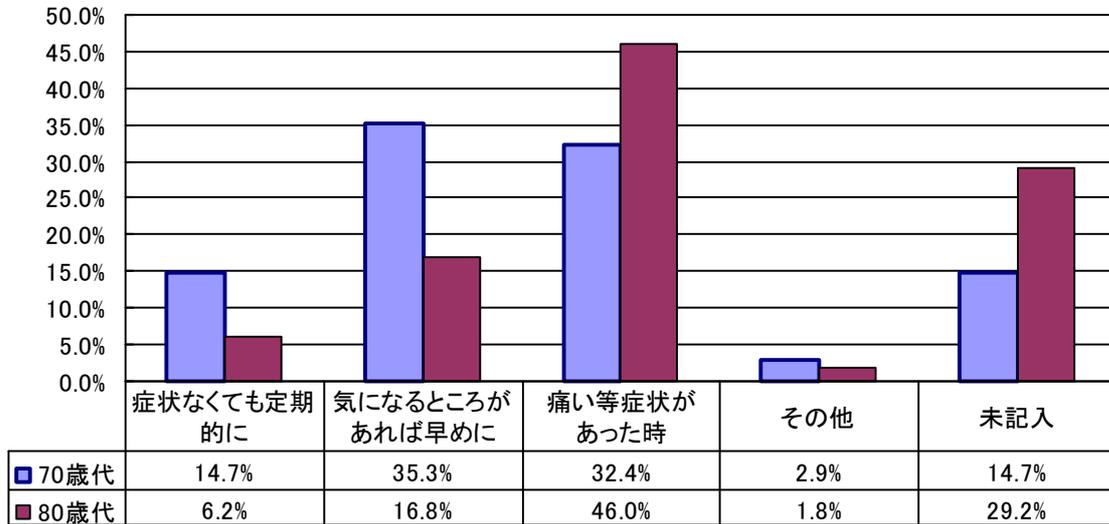
i 定期的に歯科検診や歯石除去を受けている人は、70歳代は青壮年期よりは多いが、80歳代になると少ない。

◆定期的に歯科検診・歯石除去を受けている人の割合(アンケートより)



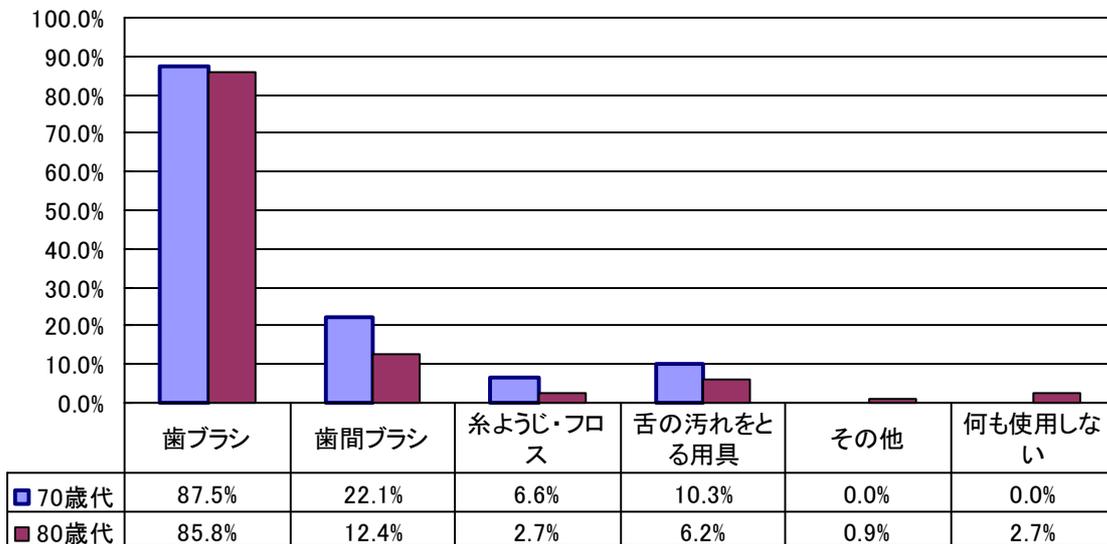
- i 歯科医院へは、70歳代では予防的に受診している人が多いが、80歳代になると症状が出てからの受診が多い。

◆ 歯科医院を受診する理由(アンケートより)



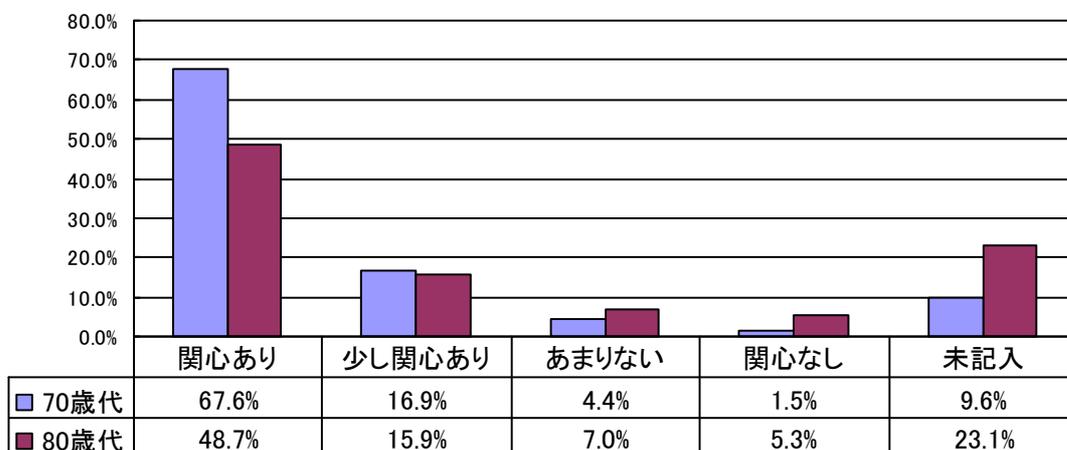
- i 歯ブラシ以外の口腔清掃用具を使用している者は少ない。また、年齢が高くなるにつれて、口腔清掃用具を使用しなくなる人がいる。

◆ 歯の手入れで使用している道具(アンケートより)



i 歯の健康に関心のある人の割合は、80歳代が一番低い。

◆歯の健康に関心のある人の割合(アンケート結果より)



課題

i 70歳代までは、歯の健康に対する関心はあるが、自分の歯が少なくなる80歳代では関心が低くなっている。また、関心がある割には、検診受診などの行動にはつながっていない。歯を失う原因は、歯周疾患であることが多く、歯周疾患の予防には、歯磨きだけでは不十分であり、歯間ブラシや糸ようじ・フロスの活用や、定期的な歯科検診・歯石除去などが重要です。しかし、むし歯や歯周疾患予防の行動につながらないため、80歳代で自分の歯が少なくなり、さらに歯の健康への関心を低下させていると考える。歯の健康は、介護予防とも関係が強く、1本でも多く自分の歯を残すことが重要です。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- * 歯間清掃用具も活用し、丁寧な歯磨きを心がける
- * 定期的に歯科検診を受ける

行 政

- * 節目の成人歯科検診の実施
- * 健康教室等の様々な機会を通じて、歯間清掃用具の利用、歯周疾患予防の知識の普及啓発

評価指標

	現状値 (2014 年度)	目標値 (2020 年度)
80 歳代で自分の歯が 20 本以上ある人の割合	14.7%	20%
定期的に歯科検診・歯石除去を受ける人の割合	24.3%	30%
歯間清掃用具を使用する人の割合	33.3%	40%
成人歯科・歯周病疾患検診受診率	6.6~7.6%	10%

主要事業



- * 成人歯科検診（年度末年齢 70・80 歳対象）
- * 健康教室での歯周疾患予防啓発
- * 健康フェスティバル等での正しい知識の啓発普及
- * 基本チェックリストによる口腔機能のスクリーニング
- * 介護予防事業内での口腔ケア・指導

障がい者・要介護者

<u>目 標</u>	障がいがあっても、歯と口の健康を保つことができる
<u>行動目標</u>	●歯や口の不調があったら早期に歯科検診や治療を受ける ●家族や関係者は、障がい者や要介護者の歯と口の健康について理解し、健康が維持できるよう支援する

現 状

- i** 在宅の寝たきりの方を対象に、訪問歯科検診を実施しているが、H26年度の年間の利用者は0件となっている。
- i** 障がい者の歯や口腔の健康の現状について、町では調査を実施していない。
- i** 障がい者・要介護者に関係する町の計画に、歯・口腔に関する計画がない。

課 題

- i** 要介護者では、無料歯科検診の利用が少なく、介護者や介護施設職員の歯や口腔の健康についての関心も不明である。また、障がい者では、健診は青壮年期・高齢期と同じ成人歯科・歯周疾患検診のみで、障がい者に特化した事業がない。障がい者・要介護者の現状も把握できていないため、どのような課題や要望があるのかが把握できていないのが現状です。

今後のとりくみ

個人・家庭・ 地域

- * 歯間清掃用具も活用し、丁寧な歯磨きを心がける
- * 定期的に歯科検診を受ける

行 政

- * 節目の成人歯科検診の実施
- * 健康教室等の様々な機会を通じて、歯間清掃用具の利用、歯周疾患予防の知識の普及啓発

評価指標

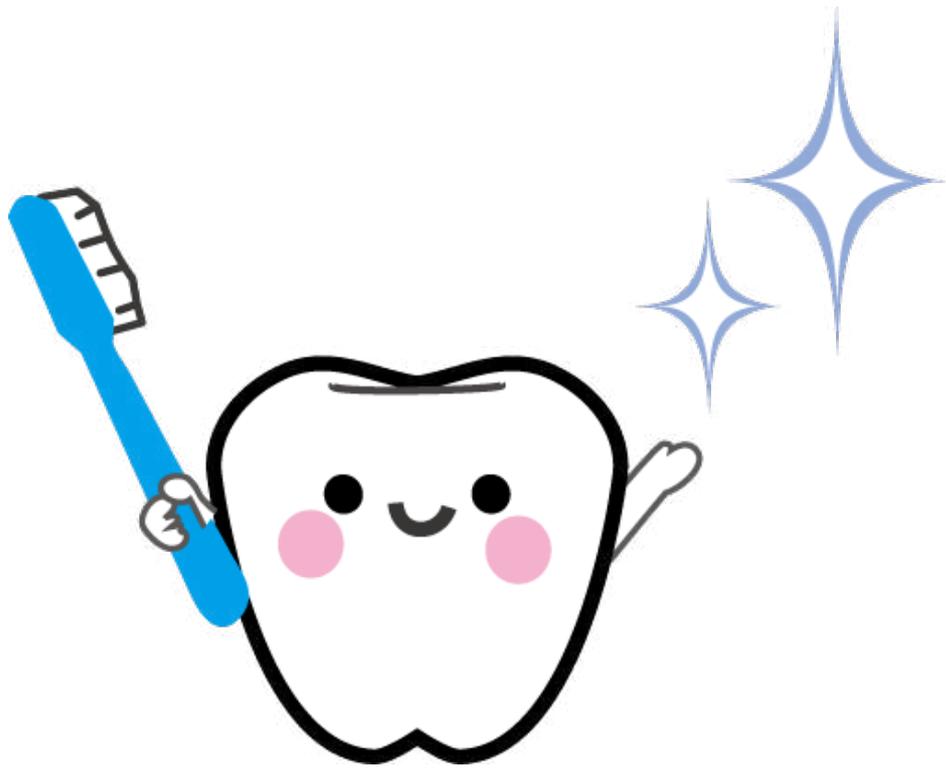
	現状値 (2014 年度)	目標値 (2020 年度)
在宅要介護者等訪問歯科検診の利用者数	0件	増加
障がい者の歯・口腔の健康に関する実態調査	未実施	実施
障がい者の歯・口腔に関する事業の実施	未実施	1 事業以上

主要事業



- * 在宅要介護者等訪問歯科検診の実施
- * 家族・介護職員への正しい知識の啓発普及
- * 障がい者等の歯・口腔の健康に関する現状の把握
(実態調査)
- * 高齢者施設での口腔ケアの実施

資料



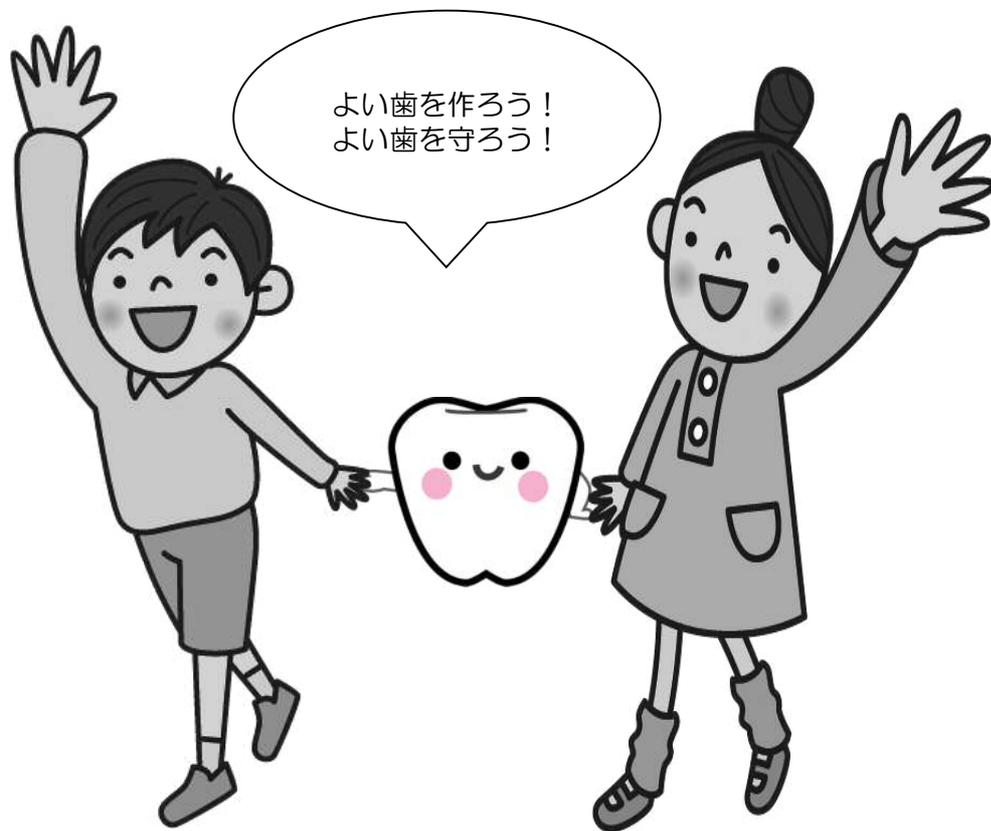
1. アンケート調査の概要

	幼児保護者	小学生	中学生	高校生年代	成人	合計
配布数	108	139	93	300	1,037	1,677
回収数	96	135	91	141	588	1,051
回収率	88.90%	97.10%	97.90%	47%	56.70%	62.60%
対象者 抽出方法	町内に住所を有し、町内の保育園に通園している3歳児・5歳児の保護者	町内に住所を有し、町内の小学校に通学している小学3年生・5年生	町内に住所を有し、町内の中学校へ通学している中学2年生	町内に住所を有する、平成9年4月2日～平成12年4月1日の期間に生まれた町民	平成27年4月2日現在で20～80代の無作為で抽出した町民（各年代から10%ずつ）	
調査方法	保育園を通じて配布・回収	各学校を通じて配布・回収		郵送により配布・回収		
調査期間	平成27年6月1日～22日	平成27年7月1日～15日		平成27年6月1日～22日		
調査地域	阿賀町全域					
調査基準日	平成27年5月1日					

2.健康づくり推進委員名簿

23年4月1日～28年3月31日

所 属	職 名	氏 名	備考
新潟県立津川病院	院長	原 勝人	
阿賀町鹿瀬診療所	所長	山崎 和秀	
五泉市阿賀町歯科医師会	阿賀班長	小野里 靖史	
阿賀町学校保健委員会	委員長 (三郷小学校長)	阿部 光雄	
津川商工会	事務局長	薄 友一	
新潟昭和(株)	総務課長	佐藤 元美	
新潟みらい農業協同組合阿賀支店		齋藤 広子	
新潟みらい農業協同組合阿賀支部女性部		清野 良枝	
阿賀町老人クラブ連合会	事務局長	皆川 喜重	
阿賀町体育協会	会長	遠藤 裕	
阿賀町食生活改善推進委員協議会	会長	青木 ツネ	
阿賀町母子保健推進員		清野 さちえ	
新潟地域振興局健康福祉部地域保健課	課長	内藤 晴子	
阿賀町学校教育課	課長	阿部 誠二	
阿賀町社会教育課	課長	斎藤 祐之	
阿賀町農林商工課	課長	関 仁	
阿賀町町民生活課	副参事 (統括保育士)	見物 とも子	
阿賀町健康福祉課	課長	神田 一秋	事務局



歯は一生の友達～いつまでも自分の歯を大切に～

阿賀町歯科保健計画

発行 平成28年4月

阿賀町役場 健康福祉課

〒959-4495 新潟県東蒲原郡阿賀町津川580番地

電話：0254-92-5763

FAX：0254-92-3001

E-mail：kenkou@town.aga.niigata.jp